

2022 年度（令和 4 年度）

日本ボクシング連盟

活動報告書

(様式)

提出日：令和 5 年 5 月 8 日

大会報告書

■大会概要

大会名	IBA女子世界ボクシング選手権 2023		
開催期間	令和 5 年 3 月 15 日 ～ 令和 5 年 3 月 26 日		
開催地	国名：インド 都市名：ニューデリー		
参加国数	65 ケ国	参加選手数	324 名
実施種目数	12階級	開催周期	2年に1度

■日本出場選手名及び成績（出場した全選手について記入ください）

出場選手数	8		出場種目数	8	
メダル獲得種目数	1	メダル獲得数	金：0	銀：0	銅：1
選手名	性別	種 目	成 績		
和田 まどか	女	ミニマム級 48kg	ベスト8		
並木 月海	女	ライトフライ級 50kg			
木下 鈴花	女	フライ級 52kg	銅メダル		
成田 華	女	バンタム級 54kg			
吉澤 颯希	女	フェザー級 57kg			
田口 綾華	女	ライト級 60kg	ベスト8		
鬼頭 茉衣	女	ライトウェルター級 63kg	ベスト8		
津端 ありさ	女	ウェルター級 66kg			

大会報告書

■大会概要

大会名	IBA男子世界ボクシング選手権 2023		
開催期間	令和 5 年 4 月 30 日 ～ 令和 5 年 5 月 14 日		
開催地	国名：ウズベキスタン共和国 都市名：タシケント		
参加国数	107ヶ国	参加選手数	538名
実施種目数	13階級	開催周期	2年に1度

■日本出場選手名及び成績（出場した全選手について記入ください）

出場選手数	9		出場種目数	9	
メダル獲得種目数	0		メダル獲得数	金：0	銀：0 銅：0
選手名		性別	種 目		成 績
荒竹 一真		男	ミニマム級 48kg		ベスト8
坪井 智也		男	フライ級 51kg		ベスト8
田中 将吾		男	バンタム級 54kg		
原田 周大		男	フェザー級 57kg		
大橋 蓮		男	ライト級 60kg		
秋山 佑汰		男	ライトウェルター級 63.5kg		
脇田 夢叶		男	ウェルター級 67kg		
岡澤 セオン		男	ライトミドル級 71kg		
荒本 一成		男	ライトヘビー級 80kg		

1.はじめに

令和 2 年（2020 年）から続くコロナ禍により、アマチュアボクシングはもとよりスポーツの普及及び振興に資するための中央競技団体（National Federation。以下「NF」と略す）の活動は困難な状況が続きましたが、このような状況下においても衛生面等に配慮した競技会運営のノウハウが集積されつつあり、また有観客での実施も可能となってきたため従前の活気を取り戻しつつあります。

令和 3 年（2021 年）に開催された東京五輪では金メダルを含む 3 人のメダリストが誕生し同年度の世界選手権においても 2 名の男子選手が優勝するなどの歴史的な好成績を収めた勢いで、令和 4 年度は ASBC アジアエリート選手権大会及び IBA 世界ユース選手権大会でそれぞれ金メダルを獲得。国際競技力向上事業（以下「強化事業」と称す）場面で代表選手が活躍をみせました。また、国内で最も権威ある全日本選手権について、墨田区での固定で開催した 2 回目の大会も活況であったことは周知のとおりです。

NF の経営場面では、2018 年（平成 30 年）9 月以降に発足した新体制においてマニフェストに掲げていた 2 つの項目を達成することができました。

一つ目は国体実施競技最下位評価により隔年開催に格下げになったことを通年開催に戻すことでしたが、これについては令和 4 年 6 月 29 日に通年開催に戻すことができました。

もう一つは、2020 年（令和 2 年）11 月 30 日付けで内閣府に提出した公益法人認定申請書類について、2023 年（令和 5 年）3 月 3 日に公益法人として認定されました。

会計に関しても、2020年度のNF全体の活動報告書以降、公益法人会計基準に則り、管理費領域と事業費領域に区分した形で報告書を纏めていることが、今回公益法人として認定されることとなりました。2022年度の本活動報告に関してもこれまでと同様に、管理費領域と事業費領域に区分した構成としております。

まだまだ改善しなければならない点も多い当連盟ではありますが、みなさまのご協力を頂きながら、適正な組織運営に努めていきたいと思っております。

2023年5月20日

日本ボクシング連盟 専務理事 仲間達也

目次

1. はじめに.....	P 2
目次.....	P 4
2. 管理費領域の報告について.....	P 6
2-1. 外部統制先への対応に関する報告.....	P 6
(1) 国体実施協議評価への対応	
(2) 公益法人としての適切な組織運営	
(3) スポーツガバナンスコードに適した組織運営	
(4) JOC からの勧告処分に対する対応	
2-2. 適正な内部統制を行うための報告.....	P 7
(1) ヒト・モノ・カネという経営資源を最適化してきました	
① ガバナンスの定義を周知してきました	
② コンプライアンスの定義を周知してきました	
③ エビデンスの定義を周知してきました	
④ 情報公開に努め説明責任を果たすことに努めました	
⑤ 自主財源増加に向けて取り組みました	
(2) 情報資源の最適化してきました	

3. 事業費領域の報告について.....	P 9
3-1. 強化事業の報告.....	P 9
3-2. 全国大会運営事業の報告.....	P 10

2. 管理費領域の報告について

2-1. 外部統制先への対応に関する報告

2020 年度の活動報告書以降、「スポーツは日常や生活に定着している国民全員の公共財産であり、それを統括する団体は、世間に対して一定以上の説明責任が求められている。また、活動原資に税金が投入されていることを鑑みても、社会規範に則り、統括団体等からの一定の外部統制を受けて然るべき団体である」と記しています。

2022 年度に行った外部統制先への対応事項は、以下の4つの項目が挙げられます。

(1) 国体実施競技評価への対応

2022 年 1 月 28 日付けで日本スポーツ協会（以下「JSPO」という）から通知された「国民スポーツ大会第 4 期実施競技選定に係る書面調査」に関して、2022 年 3 月 11 日までに回答を行った結果、冒頭「はじめに」で述べたとおり、令和 4 年 6 月 29 日 JSPO 通知文書にて前回の最下位から全 51 競技中 32 位と評価された結果、隔年開催から通年開催に戻すことができました（ただし通年開催に戻るのは令和 10 年以降）

(2) 公益法人としての適正な組織運営

冒頭「はじめに」で述べたとおり、020 年（令和 2 年）11 月 30 日付けで内閣府に提出した公益法人認定申請書類について、2023 年（令和 5 年）3 月 3 日に公益法人として認定されました。

(3) スポーツガバナンスコードに適合した組織運営

2020 年度（令和 2 年度）の活動報告書以降、今後全ての NF は、スポーツ庁が策定したスポーツ団体ガバナンスコード（https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop10/list/1412105.htm）に則った組織運営を行う必要がある旨記してきています。2022 年（令和 4 年）10 月に、当連盟が受けたガバナンスコード適合性自己説明内容を公表していますのでご確認をよろしくお願いします（<https://jabf-revival.com/govpublished/>）。審査を受けた時点での不適合項目に関しても、段階的に改善していくための計画を立てています。詳細は添付のリンクをご参照ください。

(4) JOC からの勧告処分への対応

2018 年（平成 30 年）7 月、日本ボクシングを再興する会からの告発を受け、同年 9 月に第三者委員会が調査した結果が JOC にも報告され、当連盟は JOC から勧告処分を受け、現在もそれは継続しています。勧告処分解除のために残された改善項目は、上述(3)のスポーツガバナンスコードの不適合項目原則 2 と重複します。そのため、ガバナンスコード適合への取組と並行した形で、勧告処分終了の取組を継続しています。

2-2. 適正な内部統制

2020 年度（令和 2 年度）の活動報告書以降、NF は「世間に対する説明責任がある」こと、「社会規範に則った活動をすべきであること」に関して述べました。これまで競技の愛好家・仲間同士、そして体育会系的な人間関係のみで運営されてきた NF を、社会的責任がある団体へ進化させるタイミングが訪れています。

2022 年 2 月 20 日に開催された第 7 回理事会において『業務権限規程』を策定しました（[media-3.pdf \(jabf-revival.com\)](#)）。この規定に基づいて、NF の経営資源をヒト・モノ・カネ・情報に分解し再統合する形式とし特に重要な業務について類型化・明確化しました。また、内閣府、JSPO（日本スポーツ協会）や JOC（日本オリンピック委員会）からの指導を内部に反映する業務を、「外部統制対応業務」と定めて、マネジメントスタッフをその窓口として対応しています（第 3 条 第 8 項及び別表）。

(1) ヒト・モノ・カネという経営資源を最適化してきました

① ガバナンスの定義を周知してきました

この報告書で何度も登場する、「ガバナンス」という概念を平易な言葉で説明する必要があります。2021 年度に設置した NF コンプライアンス委員会において、ガバナンス＝「大切なこと・大事なことは皆で話し合って決めること」と定義しました。では、「皆」とは誰が該当し、「話し合い」はいつ行われるのでしょうか。

まず「皆」ですが、連盟で必要としている業務（適所）に、適切に配置された「ヒト」（適材）であると定めることができます。これまでの連盟では、連盟内部の人的資源のみで業務が行われてきましたが（適材適所）、今後は必要な業務に対して、必要な人を当てはめていく、すなわち適所適材で組織づくりをする必要があります。そのための女性人材や外部人材を登用する仕組みとして、『役員候補者選考方法等に関する規程』を制定しました（[media-7.pdf \(jabf-revival.com\)](#)）。

また、「話し合い」を行う場である会議が、適切に運営される必要があります。2020 年の活動報告書の「会議体適正運営の定義」や、「業務執行規程（令和 3 年 3 月 15 日制定、同年 6 月 13 日改正）[media-11.pdf \(jabf-revival.com\)](#)」に、理想とする会議体運営について示しました。こちらもぜひご覧いただければと思います。なお、2022 年度に開催した理事会及び総会はホームページに公開しているとおりです（[理事会・総会 - 日本ボクシング連盟 \(jabf-revival.com\)](#)）。

② コンプライアンスの定義を周知してきました

ガバナンスと同様に、「コンプライアンス」という概念も、平易な言葉で定義する必要があります。こちらも、NF コンプライアンス委員会において、コンプライアンス＝「皆で話し合って決めたルールを守ること」と定義しました。この、皆で話し合って決めたルールに関しては、全ての連盟関係者（及び外部の人々）が確認できるように、連盟の Web サイトで公開しています（<https://jabf-revival.com/management/>）

③ エビデンスの定義を周知してきました

「エビデンス」という言葉もまた、平易な言葉で定義しなければなりません。こちらは、「証

「**拠・根拠・論拠・正当性**」等と訳されます。未成熟な組織においては、時に、明文化されていない「不文律」に則った運営がなされることがありますが、それでは国民に対する説明責任が果たせません。これからの NF には、誰もが納得する、エビデンスに基づいた組織運営が要求されています。

④ 情報公開に努め説明責任を果たすことに努めました

前述の様に、全ての NF は、国民に対して、組織運営が適切であることを説明する責任を持ちます。根拠を持った説明を行うために、整理されたエビデンスが必要です。内閣府へ提出した公益法人認定審査の書類には、多くのエビデンスを揃えて提出しました。そのため高評価に繋がったと考えられます。また、このエビデンスは、いつでも、誰でも、わかりやすく確認ができる必要があります。2018 年から整理してきた当連盟の web サイトでは、1. 組織図、2. 事業計画と予算書、3. 事業報告書と決算書、4. 理事会・総会の議事録、が整理され閲覧可能となっています。これらの項目の詳細に関しては、解説動画をご覧ください <https://www.youtube.com/watch?app=desktop&v=dahXNaOWrUo>

⑤ 自主財源増加に向けて取り組みました

2020 年度（令和 2 年度）の活動報告書以降、NF が収益化（自主財源増加）を求められていること、そして、アマチュアボクシングは優れたビジネスコンテンツとしての可能性を秘めていることについて述べました。アマチュアボクシングを収益化させるためには、ボクシングを「する」ヒトと、「みる」ヒトの双方を増加させる必要があります。「するヒトを増加させる計画＝普及計画」、「みるヒトを増加させる計画＝マーケティング計画」と定義し、マスポクシング大会の開催、メディアへの露出機会の増加に関して取り組んできました。

具体例としては、全日本選手権について、大会演出への注力や民放とインターネット配信を通じてボクシング競技会の魅力を広く世間に発信し、また、映像著作権等を NF に帰属させることで収益化に努めました。これまでのような NHK での決勝戦のみ地上波で放送するという、映像著作権を NF が保有できないやり方を苦渋の選択のうえ止めました。映像視聴者の傾向が地上波からインターネットに移っている傾向が顕著な現状を鑑みても、NF が映像著作権等を保有しインターネット等を通じて収益化を図るという舵取りへの転換へのご理解を、どうぞよろしくお願い致します。

なお、カネ資源を最適化しているエビデンスについては令和 3 年度の決算書をご参照ください。

(2) 情報資源を最適化してきました

情報資源とは、ヒト・モノ・カネの資源よりと違い、見えにくいものです。これをデジタル形式で可視化することで、経営資源として最適に管理することができます。

当連盟では（来るべき公益法人化を見据えて）公益会計基準に則り、2020 年度から、NF 全体の業務や組織、規程体系、活動報告書や活動計画書、そして今回の 2022 年度決算の支出科目においても、公益会計基準の事業費及び管理費の区分に則り一貫通貫したデザインを描き、デジタル化してホームページに掲載する仕組みを構築することで内閣府から絶賛され公益認定を得る上での最大の評価事項となりました。また、今後は、役員・選手登録、選手手帳などの物品購入、資格情報管理、大会エントリーなどのデジタル化を推進させ、業務品質

や情報管理品質の向上に努めました。

3.事業費領域の報告について

公益法人化を目指す当連盟の事業全ては、公益目的支出事業であり、強化事業及び全国大会運営事業がその柱です。2020 年度活動報告書でも述べたように、今後、全てのNFは収益化（自主財源増加）が要求されます。スポーツ庁も、日の丸を背負った代表選手を国際舞台で活躍させるための選手強化、すなわち【強化事業】に偏重した組織運営は見直すべきであると述べており、強化・普及・そして収益化・組織ガバナンス強化など、さまざまな課題に対してバランスが取れた運営が必要となります。

3-1. 強化事業の報告

強化事業は、以下の様に多岐に渡り、業務量も膨大です。これらの業務を整理する必要があります。

- 1) 上位団体から提出を要請されている強化戦略プランの作成やその実行
- 2) NFを代表して日の丸や五輪を背負う地位を付与する業務
- 3) JOC強化部等が主催する各種会議への参加や関係者へのフィードバック
- 4) 合宿遠征計画の立案・旅行手配や医科学的サポートスタッフとの協働化による強化体制の充実化
- 5) 国際大会等への帯同及びトップアスリートのコーチング
- 6) NTC 利活用
- 7) 世界のアマチュアボクシング界における日本のプレゼンスを高める各種渉外業務

また、1) 2) 4) 5) に関連する内容については、前述の「業務権限規程」において、起案者・協議者・決定者を整理し、適正な運営が行われる仕組みを作りました。前述のガバナンスがしっかりとした運営を行う大きな一歩です。これら強化事業の業務領域の中で、ガバナンスが特に求められるのは、2) NFを代表して日の丸や五輪を背負う地位を付与する業務です。どの国際大会に、誰を（選手、コーチ、スタッフ）参加させるのかを公平に決定するのは非常に困難です。強化委員会、スポーツ科学委員会、理事会、事務局の連携を強め、公正で透明な合理性がある（かつ実現可能な）選考基準を示す必要があります。選考人数、選考対象とする期間、選考対象となる競技成績等、選考に必要なあらゆる要素をあらかじめ明確に整理した、より詳細な基準の採用を開始しました。

2022 年度の国際大会等への帯同及びトップアスリートのコーチング結果は下表のとおりです。

R4年度 国内外合宿・大会

	名称	開催地	期間	人数	成績
1	IBA女子世界選手権事前合宿	鳥取県・米子市	4月17日～24日	選手13名 コーチ7名	
2	第1回全日本男子強化合宿	鹿児島県・徳之島	5月2日～11日	選手12名 コーチ7名	
3	IBA女子世界選手権大会	トルコ・イスタンブール	5月3日～22日	選手8名 コーチ10名	上位成績なし
4	第1回全日本女子強化合宿	富山県・富山市	6月20日～7月2日	選手7名 コーチ4名	
5	第1回エロルダカップ	カザフスタン・ヌルスルタン	6月28日～7月5日	選手8名 コーチ6名	金1 銀1
6	全日本男女エリート韓国合同合宿	韓国・鎮川	8月2日～12日	選手19名 コーチ11名	
7	第1回女子次世代アスリート強化合宿	北海道・紋別市	8月4日～10日	選手11名 コーチ5名	
8	第1回男子次世代アスリート強化合宿	北海道・紋別市	9月5日～12日	選手18名 コーチ9名	
9	FISU世界大学ワールドカップ	トルコ・サムスン	9月22日～30日	選手10名 コーチ6名	銅6
10	第1回男子次世代U強化合宿	兵庫県・西宮市	12月26日～30日	選手28名 コーチ11名	
11	ASBCアジアエリート選手権大会	ヨルダン・アンマン	10月27日～11月14日	選手16名 コーチ9名	金1 銀5 銅2
12	IBA世界ユース選手権大会	スペイン・アリカンテ	11月6日～29日	選手16名 コーチ8名	金1 銅2
13	IBA世界女子選手権大会	インド・ニューデリー	3月10日～28日	選手8名 コーチ8名	

3-2. 全国大会運営事業の報告

全国大会運営事業に関しても、前述の「業務権限規程」において、競技役員等を選定する業務について、起案者と協議者及び決定者を整理しました。当 NF が主催になる大会だけでなく、インターハイや国体をはじめとする行政が関与する大会においては、開催地の実行委員会のみならず、大会主催者である日本スポーツ協会や全国高体連などと密に連携を行う必要があります。今後、この連携を含む、多岐にわたる業務の効率化を、総務委員会を中心に行なっていくことを検討を開始しています。

また、前述の全日本選手権等、当 NF が主催の大会については、大会の運営のみならず、魅力的な演出を行なっていくため、広報戦略委員会を中心に発展的な取組を実施しました。

2022 年度の個別具体的な全国大会運営事業の結果は下表のとおりです。

R4年度 全国大会一覧

	名称	開催地	期間
1	令和4年全国高等学校総合体育大会 ボクシング競技大会 兼 第76回全国高等学校ボクシング選手権大会	高知県・南国市スポーツセンター	2022-07-27 ～ 2022-08-02
2	第76回全日本大学ボクシング王座決定戦	茨城県・アダストリアみとアリーナ	2022 - 08-27
3	第9回全日本UJボクシング王座決定戦		2022-08-26 ～ 2022-08-28
4	第74回全日本社会人ボクシング選手権大会／第1回全日本女子ジュニアボクシング選手権大会	北海道・紋別市スポーツセンター	2022-09-14 ～ 2022-09-19
5	第2回全日本マスボクシング選手権大会	青森県・青森中央学院大学 10号館体育	2022-09-23 ～ 2022-09-25
6	第77回国民体育大会ボクシング競技(いちご一会とちぎ国体)	栃木県・日光市大沢体育館	2022-10-05 ～ 2022-10-10
7	2022全日本ボクシング選手権大会	東京都・墨田区総合体育館	2022-11-22 ～ 2022-11-27
8	第34回全国高等学校ボクシング選抜大会兼 JOC ジュニアオリンピックカップボクシング大会	鹿児島県・阿久根市総合体育館	2023-03-20 ～ 2023-03-24
9	第2回全日本UJフレッシュボクシング大会 兼 全日本UJ 王座決定戦出場権争奪戦		2023-03-23 ～ 2023-03-26

(様式)

提出日：令和 5 年 5 月 8 日

大会報告書

■大会概要

大会名	IBA女子世界ボクシング選手権 2023		
開催期間	令和 5 年 3 月 15 日 ～ 令和 5 年 3 月 26 日		
開催地	国名：インド 都市名：ニューデリー		
参加国数	65 ケ国	参加選手数	324 名
実施種目数	12階級	開催周期	2年に1度

■日本出場選手名及び成績（出場した全選手について記入ください）

[illegible]

大会報告書

■大会概要

大会名	IBA男子世界ボクシング選手権 2023		
開催期間	令和 5 年 4 月 30 日 ～ 令和 5 年 5 月 14 日		
開催地	国名：ウズベキスタン共和国 都市名：タシケント		
参加国数	107 ケ国	参加選手数	538 名
実施種目数	13階級	開催周期	2年に1度

■日本出場選手名及び成績（出場した全選手について記入ください）

出場選手数	9		出場種目数	9	
メダル獲得種目数	0	メダル獲得数	金：0	銀：0	銅：0
選手名		性別	種 目		成 績
荒竹 一真		男	ミニマム級 48kg		ベスト8
坪井 智也		男	フライ級 51kg		ベスト8
田中 将吾		男	バンタム級 54kg		
原田 周大		男	フェザー級 57kg		
大橋 蓮		男	ライト級 60kg		
秋山 佑汰		男	ライトウェルター級 63.5kg		
脇田 夢叶		男	ウェルター級 67kg		
岡澤 セオン		男	ライトミドル級 71kg		
荒本 一成		男	ライトヘビー級 80kg		